

平成28年度 長崎県立大学C O C 事業評価報告書

項目	事業の目的・必要性		平成28年度事業実施計画の内容	自己評価		委員会 評価	備考
	平成25～29年度	平成28年度		計画の進捗状況、成果及び評価の判断理由	評点		
4. 全体							
<ul style="list-style-type: none"> 本学における事業の推進体制を整備し、地域との連携やグローバル人材育成のためのカリキュラム改革を実施することで、地域を志向する教育改革や学長をトップとするガバナンス改革を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学部学科再編や学校教育法改正の機会を捉えた学長をトップとするガバナンス体制をより充実させる。 補助期間終了後の事業継続体制の構築を検討する。 	<p>COOプロジェクト推進本部(学長を中心とした学内意思決定機関)の開催。学内における本事業の進捗や各取組の報告をうけ、改善点等の検証や重要事項の決定を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度は、COOプロジェクト推進本部を3回開催し、重要事項の決定や各部会からの事業報告による情報の共有を行った。COOプロジェクト推進本部については、学長を中心とし、副学長、学部長、事務局長、学内関係委員会委員長を委員とすることで、トップダウン型の迅速な意思決定が可能となった。また、学部、学内委員会への伝達もスムーズになり、より事業効果を高めることができた。 	Ⅲ	Ⅲ		
		<p>COOプロジェクト連絡会議(大学と各自治体との連絡調整機関)の開催。地域との取組事例を定期的に報告し、広く周知を図るとともに、地域の要望等を聞き取り、連携の展開に関して検討を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 7月と2月にCOOプロジェクト連絡会議を開催した。COO事業における地域からの要望や意見の徴取、大学側から地域へ依頼等を行った。情報を常に共有し事業を円滑に進めるためのコミュニケーションづくりの場として重要な会議となっている。COOプロジェクト連絡会議を設置することで、地域が持つ課題や要望等をすみやかに取り入れ、また、地域より適切な活動場所の提供やアドバイスを受けることが可能となった。学生のフィールドワークにおける活動への理解や地域課題の設定に関する相互理解が深まることにより、地域を志向する様々な取組みを円滑に進めることができた。 	Ⅲ	Ⅲ		
		<p>COOプロジェクト評価委員会(事業内容の評価・提言の機関)の開催。地域との取組内容や教育改革の進捗状況等について審査を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度分のCOO事業における事業評価報告書を作成し、評価委員会の開催に向け準備を行った結果、5/12の開催となった。過半数の外部委員からなる評価委員会を設置することで、事業の進捗の透明性が担保され、より効果の高い事業の検討・実施が可能となる。昨年の評価委員会からの評価やご意見については平成28年度評価を受ける際に生かしていく。 	Ⅲ	Ⅲ		

平成28年度 長崎県立大学C O C 事業評価報告書

項目	事業の目的・必要性		平成28年度事業実施計画の内容	自己評価		委員会 評価	備考
	平成25～29年度	平成28年度		計画の進捗状況、成果及び評価の判断理由	評点		
1. 教育							
<ul style="list-style-type: none"> 離島・半島など特色ある県土をフィールドとした教養教育の質的充実と、応用能力・実践的能力を涵養する専門教育及び外国語教育を実施することで、真の学士力を備えた専門職業人及び国際教養人を育成する。 全学的なカリキュラム改革と学部学科再編を含む教育課程の改革を行う。さらに、教育の質的転換を図るため講義科目にアクティブラーニングを導入し、課題解決型教育を実践することで、グローバルな視点をもちかつ地域の諸課題を解決できるグローバル人材を育成する。 長崎関連の専門科目と連結した「長崎・しま」をキーワードとする全学教育科目を配科し、地域を学ぶ実践的な体験学修等を実施することで学生の課題探求能力や問題解決力を 	<ul style="list-style-type: none"> 「しまなび」プログラムを経済学部、国際社会学部の学生に対して実施することにより、教養教育の質的充実及び学生の課題探究能力や問題解決力を育成する。 「しまなび」プログラムの講義科目にPBL手法を導入することにより課題解決型授業を実践することで教育の質的転換にも資することができる。 28年度より再編する学部学科のカリキュラムをカリキュラムポリシーに基づき適切に実施する。 	フィールドワークに向けた事前学習、課題抽出、準備等	<ul style="list-style-type: none"> 前期に、「長崎のしまに学ぶ」(全15回)として「しまなび」プログラムの講義部分を実施した。実際にしまの関係者より、しまの概要や問題点等について説明いただき、学生はしまの状況をしっかり理解したうえで、課題の解決方法やフィールドワーク(4泊5日)の計画等に取り組んだ。6回目以降はグループワークが主体となり、PBL、ディスカッション、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングを経験することで、知識の定着や課題探究能力や問題解決力を涵養することができた。また、授業内容の記録、出欠管理、レポート提出、フィールドワークの計画策定等においては、本学で開発したeラーニングシステム『nanabi e(マナビー)』が学生の学習効率向上に大きく寄与した。 	IV	IV	【評価委員会意見】 大変な取り組みをよく実施されている。学生もシステムを使いこなしており評価に値する。	
		離島でのフィールドワークの実施、報告会等	<ul style="list-style-type: none"> 8月から9月、講義科目で各グループが準備した計画に基づきフィールドワークを行った。(学生530名、教員30名参加)フィールドワークは7つのしま(対馬、壱岐島、的山大島、宇久島、小値賀島、中通島、福江島)で4泊5日の日程で行い、4日目には報告会をしまで開催することにより、成果をわかりやすくまとめ発表する能力や地域の方々との意見交換等により、学生のコミュニケーション力も身につけることができた。また、フィールドワーク活動時には地域のさまざまな立場や世代の方との交流により、地域活性化が図られた。さらに、10月には48グループを3つに分け、10/4、14、28で「しまなび」報告会を開催した。報告に向け、各グループで協議し、資料等を作成する中で協調性や発信力、コミュニケーション力などを涵養することができた。 	III	III		
		「しまなび」プログラムの成果をしまと大学を遠隔システムで結んで報告会を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 10月の発表会で学生の評価が高かったグループをしま毎に選抜して、12月に全体発表会を開催した。全体発表会は佐世保校とシーボルト校、フィールドワークを行った7つのしまを遠隔システムを使って結び、しまの報告会を開催した。学生の評価を基に選抜された12グループは、これまでの発表資料や内容などをブラッシュアップして報告会に臨んだ。各発表ごとに参加者からの質疑が行われ、発表終了後には、しま関係者と意見交換会を行い、大変温かいご意見やアドバイスをいただいた。 	III	III		
		学生の提案を実現するためのしま関係者と学生とのディスカッションの実施。	<ul style="list-style-type: none"> 学生の調査等の成果で実際に活用できそうなものについては、問題点や改善点などを関係者と協議し、実現に向け活動を継続した。なお、1つの成果として、五島でのフィールドワークを行った学生グループが、かんころ餅パッケージを製作し、長崎浜屋「五島の観光とよか産品まつり」(開催期間2/28～3/6)にて、地元業者と連携・販売を実施することができた。このように発表会やしま関係者とのディスカッションを通して、社会人基礎力を醸成することができた。 	III	IV	【評価委員会意見】 想定以上に先へ進んだ事例があり、自己評価以上の評価に値する。	

平成28年度 長崎県立大学COC事業評価報告書

項目	事業の目的・必要性		平成28年度事業実施計画の内容	自己評価		委員会 評価	備考
	平成25～29年度	平成28年度		計画の進捗状況、成果及び評価の判断理由	評点		
<p>涵養する教育プログラム(「しま」体験教育プログラム)を全学生必修とする。</p> <p>・ 学部ごとに「しま」と地域の特色をいかした教育課程を整備することで全学共通科目から専門科目へと切れ目なく地域を志向した履修モデルを構築する。</p> <p>・ 教職員が協力して入学時から卒業までの一貫した就業力育成教育を行うことにより、学生が希望する進路の実現に必要な知識・人間力を涵養する。</p>			<p>27年度の実施結果をもとに、eラーニングシステムの更なる改善を行うための開発を継続して行う。</p>	<p>・ H27年度実施結果をもとに機能追加を行ったeラーニングシステムをH28年度に実運用した。H28年度の機能追加として、しまなびプログラム評価機能、発表会の閲覧と投票機能、過去の成果閲覧機能、地域コーディネーターとの連携機能を搭載した。H28年度の学生530名の運用を踏まえた改善点をまとめ、H29年度につなげる。</p> <p>・ この3年の実績から、成績評価の方法を『合格』、『不合格』の2段階評価から、eラーニングシステムを活用するA～F評価の導入に向けた検討を行い、H29年度より実施する。このことにより、学生のさらなる意欲向上が期待できる。</p>	IV	IV	【評価委員会意見】 先例からレベルアップし、最終的な着地点のイメージが付く動きやすさに繋がっており評価に値する。
			<p>「しまなび」プログラムで活用するサテライトの選定、整備。</p>	<p>・ フィールドワークにおける学生の活動拠点や教職員の待機場所として、7つのしまで計10か所のサテライトキャンパスを選定した。当初サテライトキャンパスは、学生のしまにおけるフィールドワークの拠点と地域住民の生涯学習の場としての機能をもたせた固定した施設を想定していた。しかし、使用できるようにするためには多額の設備改修費用が必要であり、固定した施設では利便性がよくないことなどが判明したため、既存の会議室や公民館等を利用することとした。固定した施設より利便性の良い場所や適切な時期に弾力的に設定する方がメリットがあり、経費も押さえられ結果的に使いやすい拠点となっている。</p>	III	III	
			<p>「しまなび」プログラムでPBLを活用するため、学内教職員のスキルアップに向けたPBLワークショップの実施。</p>	<p>・ 8/10, 11 全学FD研修会として、「学生の動機づけを高める」をテーマに2日間開催された。教職員151名参加。また、分科会では、「しまなびプログラム」等における「PBLを含むアクティブラーニングでの動機づけ」をテーマに議論を行い、その結果を参加者全員で共有した。</p> <p>・ 11/8 経営学部FD研修会として、「しまなびプログラムに関する意見交換及び今後の進め方の検討」をテーマに研修を行った。(教職員21名参加)</p> <p>・ 2/7 地域創造学部FD研修会として、「アクティブラーニングの理解と実践について」をテーマに研修を行った。(教職員30名参加)</p> <p>・ アクティブラーニングや課題解決型教育を目指していくうえで、教職員のPBL実践のスキルは不可欠である。昨年度より必修化した「しまなび」プログラムは講義科目においてPBLを活用した授業として、多くの教職員がプログラムに関わることとなった。しまなびプログラム実施後に振り返りや改善点、意見交換等教職員に対するPBLの研修を行ったことでPBLの考え方や進め方のスキルアップが図られ、よりスムーズなプログラムの運営が可能となった。また各教員の専門科目等にもそのスキルを生かしていくことができるため、今後PBLの専門科目への展開も期待できる。</p>	III	III	

平成28年度 長崎県立大学COC事業評価報告書

項目	事業の目的・必要性		平成28年度事業実施計画の内容	自己評価		委員会 評価	備考
	平成25～29年度	平成28年度		計画の進捗状況、成果及び評価の判断理由	評点		
2. 研究							
<ul style="list-style-type: none"> 長崎の地理的、歴史的特徴を踏まえた重点課題研究を設定し、研究環境の充実や重点課題研究への研究費配分など研究向上のための支援を行うことにより、地域の振興を推進することができる。 地域が求める政策課題に関する研究に積極的に取り組み、提言を行う。 教員が行う地域課題等の研究成果を教育に有効に活用し、教育の質向上に努める。 地域社会へ多くの研究成果を積極的に還元するため、知的財産の創出・管理・技術移転への取組・支援体制を強化する。 地域活性化や地域課題への対応のため、地域の企業、研究機関、自治体との交流を深めることにより、産学官連携を推進することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域振興の推進のため、長崎の地理的、歴史的特徴を踏まえた重点課題研究を継続して行う。研究成果については地域へ還元し、授業への活用も行う。 大学と地域が連携して地域の課題を解決するため、地域からの受託研究等や産学官連携の事業に積極的に応じる。 「しま」が求める地域課題等を「しまなび」プログラムに適切に反映することにより、若者目線での解決策に繋がるような提言を行う。 	<p>学長裁量教育研究費の公募、採択を行い、研究を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 4月、学長裁量教育研究費の公募を行い、審査会を開催のうえ14件/16,407千円が採択された。学長裁量教育研究費を本学教員に配分することで、地域課題の解決や政策提言につながった。また、本学の地域を志向した教育の還元に資するものとなり、各教員が地域に対する視野を広げ、研究成果を各々の授業に活用し、学生へ地域を志向した授業や卒論や修論の研究テーマに反映させることができた。 	III	III		
		<p>包括連携協定を締結した自治体と共同研究、受託研究を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 包括連携協定を締結している佐世保市、平戸市、長与町、新上五島町と、共同研究、受託研究、連携事業を行った。地域との共同研究、受託研究等の実施により、地域の諸課題に対し地域と連携して解決を図ることができた。 	III	III		
		<p>公開講座</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座を春、秋に19講座実施し、1,778人の聴講者があった。うち5講座については離島会場である新上五島町へ遠隔講義システムを用いて配信を行った。公開講座を地域住民に向けて行っていくことにより、大学教員の研究や大学の取組みが地域に理解されていくこととなる。公開講座の受講者は年々増加傾向にあり、この取り組みを続けていくことによりCOCにおける地域での活動等に対して協力を得ることに繋がっていく。 	III	III		
		<p>看護学科しまの健康実習報告会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 6月30日に看護学科しまの健康実習報告会を開催した。この報告会を実施することにより、学生がしまで実習した成果をまとめ、現地の実習でご指導いただいた保健師、関係者に発表を行うことで、学生の課題探究能力や問題解決力が涵養された。 	III	IV	【評価委員会意見】健康維持や病気予防に繋がり、地元関係者等からも大変好評であり、自己評価以上の評価に値する。	
		<p>重点課題研究報告書作成、地域との連絡会等により配付。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域志向教育研究経費の平成27年度成果報告を取りまとめた冊子を作成し、7月に県内各市町及び県関係機関に配付した。このことにより、地域の課題解決に資する研究の成果を地域に還元することができた。 	III	III		
		<p>事業経過報告書の作成。本事業での取組内容等を地域に広く周知。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業経過報告書を作成し、今年度の各事業についてとりまとめ、地域の方や関係者へ配付した。このことにより、本学のCOC事業全体について理解が得られ、地域の皆様と連携して事業を進めていくことが可能となった。 	III	III		

平成28年度 長崎県立大学C O C 事業評価報告書

項目	事業の目的・必要性		平成28年度事業実施計画の内容	自己評価		委員会 評価	備考
	平成25～29年度	平成28年度		計画の進捗状況、成果及び評価の判断理由	評点		
3. 社会貢献							
<p>・ 地域公開講座や学術講演会等を開催することで、教育研究の成果を地域社会に還元する。</p> <p>・ 高校生への出前講義や大学における模擬授業により高大連携を推進し、さらに地域の小中学生や高齢の方への出前講座・体験学修等の学修支援を行うことにより、生涯学修拠点機能を強化する。これらの実施にあたっては、遠隔システム(テレビ会議システム)を積極的に活用する。</p> <p>・ 本事業により得られた知見を地域の自治体に提言することにより、地域再生・活性化に結び付ける。</p>	<p>・ 大学が持つ様々な知を、公開講座や地域公開講座等を通じて、地域の住民に還元する。</p> <p>・ 地域を志向した大学教員の研究成果や学生の「しまなび」プログラムによって得られた成果等については、報告書や現地への報告会等を通じて地域に還元し、大学教職員、学生、行政、地域住民等との連携を図りながら課題解決に向けた協力体制を確立する。</p>	<p>包括連携協定を締結した自治体と共同研究、受託研究を実施する。</p>	<p>・ 新上五島町、佐世保市、長与町、平戸市と連携協定に基づき、共同研究・受託研究など連携事業に取り組んだ。このことにより、地域の人口減少対策、交通不便地区調査、マーケティング調査等の諸課題に対する情報分析のデータ提供、課題解決に向けた助言等を行った。</p>	Ⅲ	Ⅲ		
		<p>地域、本学学生、教職員による特産品開発、販売ルート開発等開発の協議</p>	<p>・ H29年度からの本格実施する佐世保市の特産品に係る販売促進の共同研究については、その事前準備として、教員の指導のもと学生が市場視察等の調査を実施した。学生が実際に現地で調査を行うことにより、市場が持つ課題や現状を把握することができたとともに、課題発見力、計画力、創造力などが醸成された。</p>	Ⅲ	Ⅲ		
		<p>「しまなび」プログラムの実施による地域住民との交流や地元高校等との連携した活動を行う。</p>	<p>・ 「しまなび」プログラムにおいて、しまの地域住民や小学校、中学校、高校と連携してフィールドワークを実施した。しまのフィールドワークでは、地域の方や学校の生徒や先生方へインタビューやアンケートによる情報収集、また、共同してフィールドワークの課題に取り組んでいく中で、問題を理解する力、そのうえで適切に表現する力、関係を構築する力などコミュニケーションに必要な力が身に付いた。今後はさらにしまの住民のご意見もより多く取り入れて、交流を深める方向で努力していきたい。</p>	Ⅲ	Ⅲ		
		<p>学園祭における地域と協働したブースの設置や地域同士のマッチングを目的とした活動を実施</p>	<p>・ 10月、11月に開催した学園祭において、計2市1町の地域が出店し、特産品の販売や地域のPRを行った。このことにより、学生や大学周辺の方々の地域に対する理解を深めることができた。また大学職員や学生と協働することにより、今後の特産品開発をはじめとするお互いに協力が必要な事業へ向けより関係が深まった。</p>	Ⅲ	Ⅲ		
		<p>生活習慣病講座、女性キャリア支援講座等の開催</p>	<p>・ 各地域において、生活習慣病予防の対策や食育等に関する講座を開催した。(計13回、参加者計728名)また、長与町において、7月20日に女性のキャリア支援等に関する講座を開催した。(参加者33名)このことにより、大学が持つ知識を地域社会に還元することができた。今後も地域の要望による講座等を引き続き開催していく。</p>	Ⅲ	Ⅲ		

平成28年度 長崎県立大学COC事業評価報告書

項目	事業の目的・必要性		平成28年度事業実施計画の内容	自己評価		委員会 評価	備考
	平成25～29年度	平成28年度		計画の進捗状況、成果及び評価の判断理由	評点		
			<p>「しまなび」プログラムの実施を踏まえ、今後の課題や地域からの要望等について学生の報告会等の機会を通して自治体や地域住民等との意見交換会等を行う。また、学生が提案した課題解決策や新商品等のアイデア、観光案内等を実際に活用するための協議を行う。</p>	<p>・学生のフィールドワークの成果で地域の課題解決等に活用できるものについて、フィールドワーク後も継続して、離島の4島（福江島、舌岐島、宇久島、的山大島）の方と学生を含めてディスカッションを行った。また、12月の全体発表会終了後に実施したアンケートでは、『報告内容は地域の課題解決の参考になりましたか？』の質問に対しては、回答者の7割以上から『参考になった』と回答が得られた。さらに、自治体や地域住民等と意見交換も実施した。（参加者：発表会場 大学2会場/112名。離島遠隔会場 8会場/74名）このように、意見交換会等を開催し、地域からの意見や要望を掌握することにより、地域の課題に対応した事業展開が可能となった。さらに、各地域が抱える課題やその解決策について、地域間での情報共有を行うことができた。また、学生のフィールドワークの成果を実際に活用するために、学生としまの方を含めたディスカッションを継続して行い、意見や要望も取り入れた成果物が実際に活用できる見込みとなった。</p>	III	III	